

一番ツバメ

皆が嬉しい(?)春の訪れ。次から次へと春らしい光景や生き物を目にする日が続く中、3月14日は今年の初ツバメを見かけました。五日市のとある場所で、一生懸命に鳴いていました。ほぼ毎年ツバメを初めて見るスポットですが、ツバメが多く見られるようになる前の数日の間、1羽だけでよく鳴いています。人気の花見スポットの場所取りかのように、こういう個体は繁殖のために早めに良いところを確保してアピールしているのではないのでしょうか。



羽繕いするかわいいツバメの様子

さあ、春本番です！！
あきる野の自然が待っているよ～ ♪♪

2024年トウキョウサンショウウオ産卵調査

今年もトウキョウサンショウウオの生息状況を把握するため、市内の産卵状況の確認を行いました。34か所を踏査した結果、確認した卵のう数は343房、西多摩自然フォーラムにより横沢入で行われている調査と、市内の施設や市民など5件の報告によっては、卵のう数は996房。市全体で確認ができた卵のう数は合計1339房でした。例年よりもやや少なく、産卵の約7割は横沢入里山保全地域に集中して行われました。

今期は、気温の変動が激しく、雨量が多かったですが、トウキョウサンショウウオが産卵した卵のう数は少ない結果となりました。産卵場所の整備や、外来種の捕獲などの保全活動を行っている場所もありますが、アライグマやイノシシなどの天敵の採食圧、また人による採取圧も目立つ印象です。産卵場所に採取道具が捨てられていることがあったり、流行している自然観察により産卵場所が荒らされている場合もあります。また、都市開発や自然

環境の悪化により、消失した水場もありました。年々の積み重ねによりトウキョウサンショウウオが絶滅している産卵場所が増加し、今年は昨年に比べ7か所で産卵が見られなくなりました。

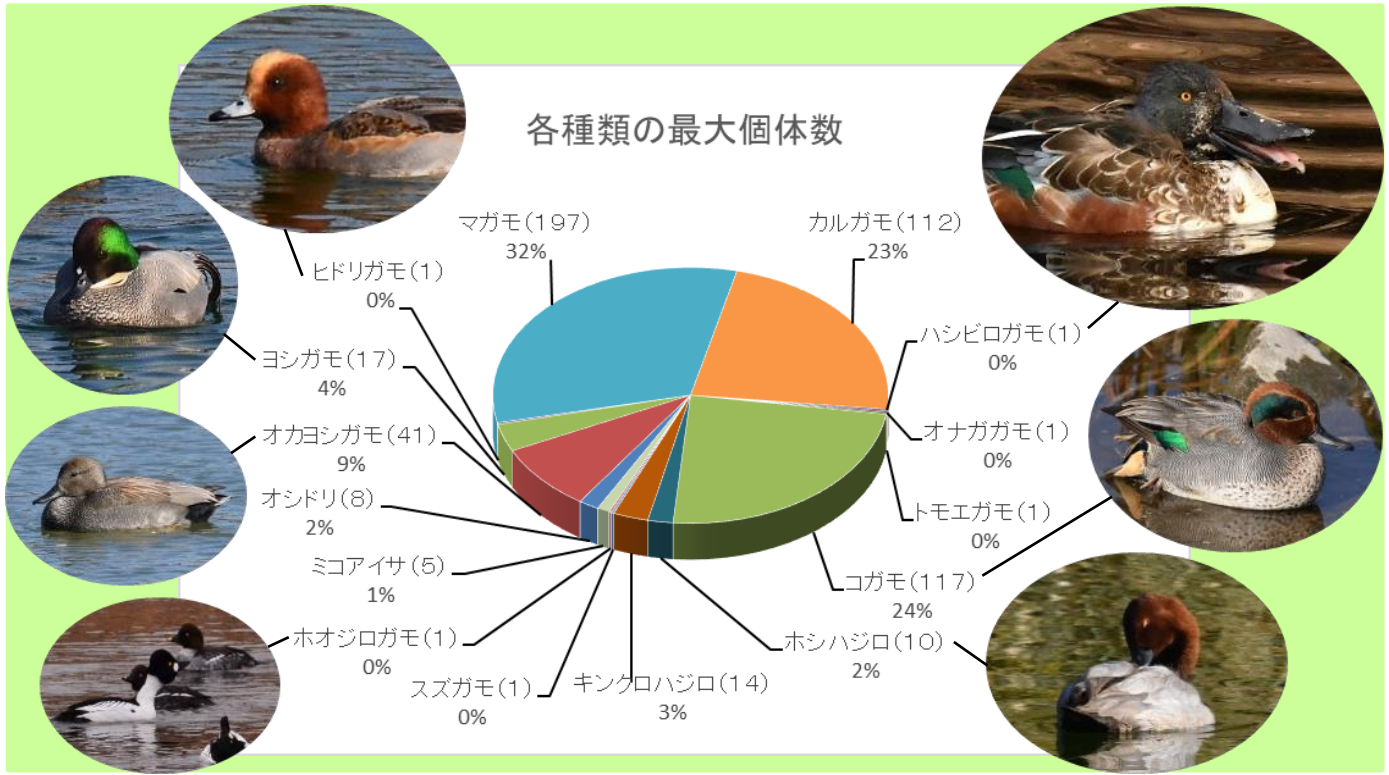
自然環境や人間のモラルの悪化により、多くの場所でトウキョウサンショウウオの存続が危機的状況にあると感じられました。現在の法令が改善されて保全の向上を願う産卵期でした。



越冬ガンカモ類調査結果

越冬のために飛来してくるガンカモ類などの冬鳥が春本番の訪れと共に、「里帰り」するため、あきる野からこれらのほとんどが姿を消します。今年は暖冬のためか、飛来したガンカモ類の個体数はこれまでで最も少ない年になりました。市内で越冬する個体数は、多い年で1000羽を超えますが、今年は487羽で、500羽を初めて下回りました。冬らしさが足りないと感じられた冬だったため、このように様々な生き物に変化が現れています。

また、越冬した15種類のガンカモ類の中、例年通りにカルガモ(あきる野では留鳥)、マガモとコガモ(どちらも冬鳥)は最も数が多かったのですが、かつて数が多かったコガモは特に近年激減している様子が見られます。おそらく、暖冬だったということ以外に何かの異変が起きていることを示す種類であると考えています。



チマちゃんコーナー <<チマちゃんリターンズ>>

またまたどーも、チマちゃんです！

おいらは、マダニの仲間のチマダニという生き物で、他の生き物から吸血するダニなのよ～。人間どもは気を付けないと、おいらチマダニがちっくんするよ～。ハハハ！ちっくん！！



チマちゃんに注意！！

マダニがよく見られる春のピークになってきました。秋の時期と共に最も生息密度が高く、入山や野原歩きなどが多い季節のため、マダニの被害を受ける確率が高まります。近年は関東地方でも感染症などの被害が報告されており、注意が必要です。マダニはシカなどの哺乳類の増加によって急増しているようで、こちらの記録では、昨年の秋の個体数の増加率はその前の年の10倍で、毎年増えています。

野外活動を行う場合は、装備を要チェックです！

短パン、半そで、サンダルなど、肌を露出をする格好は被害に遭いやすいのでみなさん気をつけてください！